

北海道観光入込客数調査報告書

平成15年度

観光入込客数(実人数)	1 頁
(参考)		
観光入込客数(延べ人数)	3 頁
来道観光客数(実人数)	6 頁
訪日外国人来道者数		
1 訪日外国人来道者数(実人数)	7 頁
2 訪日外国人来道宿泊者数(延べ人数)	9 頁

平成16年7月

北海道経済部観光振興課

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 観光入込客数調査について

本調査は、全国観光統計基準により道が定めた「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、道内212市町村が調査を行った結果を集計したもので、半期毎に実施しています。

2 調査内容

(1) 観光入込客数

ア 観光入込客数【実人数】

道内212市町村の観光入込客数や観光動態調査などにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

イ 観光入込客数【延べ人数】

道内212市町村の観光入込客数を集計した観光入込客の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。

(2) 来道観光客数

交通機関（航空機、フェリー、鉄道）の下り便の輸送実績を基に「来道観光客動態調査」などにより推計した来道観光客の実人数

(3) 訪日外国人来道者数

北海道を訪れた外国人について、「宿泊施設調査」などにより推計した訪日外国人来道者数の実人数

3 利用上の留意事項

(1) 今回の調査は、平成15年度(H15.4~H16.3)を基に行っており、「春」は4・5月、「夏」は6月~9月、「秋」は10月・11月、「冬」は12月~3月として、取り扱っています。

(2) 市町村ごとの観光入込客数調査は、実人数を推計していますが、「支庁の計」、「圏域の計」は延べ人数となっています。

(3) 数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。また、構成比は人単位で計算しています。

(4) 札幌市の観光入込客数を訂正したため、平成16年1月に発表した平成15年度上期の観光入込客数については、延べ人数及びこれをもとに推計した実人数を修正しています。

観光入込客数（実人数）

平成15年度の観光入込客の総数（実人数）は、4,939万人となり、前年度の5,009万人に対し98.6%となりました。

道内の経済状況を反映した旅行消費の低迷に加え、新型肺炎（SARS）、全国的な冷夏、台風10号や十勝沖地震、暖冬や暴風雪などの多数のマイナス要因があり、道内客、道外客とも前年度対比減少しましたが、官民一体となった積極的なプロモーション活動の効果もあって、全体としては、前年度対比1.4%の減少に止まりました。

これを道外・道内客別にみると、道外客は635万人（構成比12.9%）で前年度の99.5%、道内客は4,304万人（構成比87.1%）で同98.5%と、道内客の減少が大きくなっています。

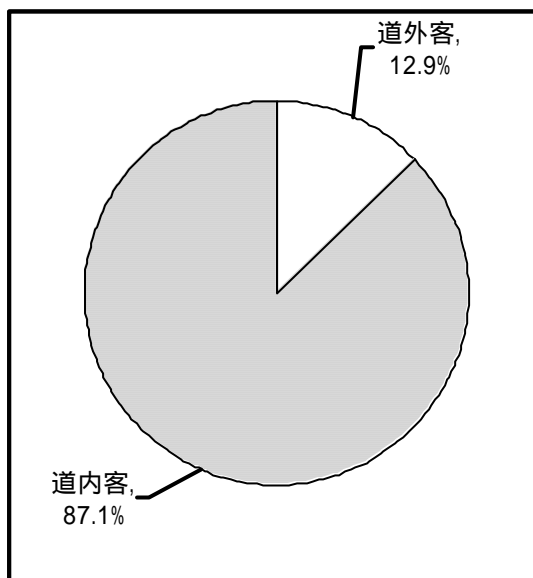
日帰り・宿泊客別にみると、日帰り客は3,442万人（構成比69.7%）で前年度の98.4%、宿泊客は1,497万人（構成比30.3%）で同99.2%と、ともに減少しています。

季節別にみると、秋季が前年度の100.3%、夏季が同100.2%と増加していますが、春季と冬季はそれぞれ同93.6%、同97.3%と減少しました。

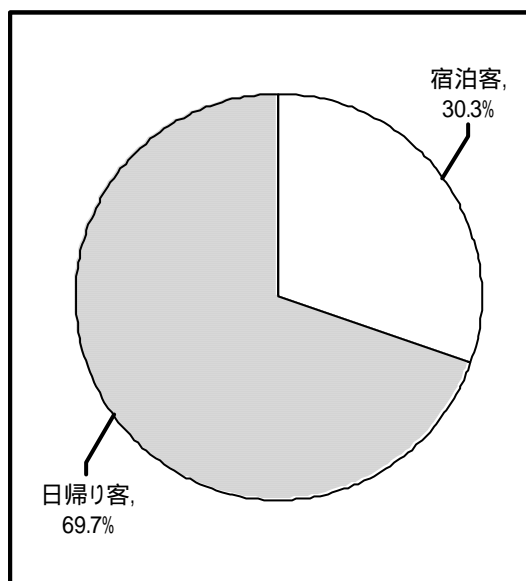
<平成15年度観光入込客数（実人数）>

区分	観光入込客数実人数	構成比	左の内訳		季節別内訳			
			日帰り客	宿泊客	春	夏	秋	冬
道外客	635万人	12.9%	2万人	633万人	78万人	358万人	73万人	127万人
構成比	100.0%		0.5%	99.7%	12.3%	56.4%	11.5%	20.0%
前年比	99.5%		76.7%	99.6%	92.4%	103.5%	97.8%	94.8%
道内客	4,304万人	87.1%	3,439万人	865万人	637万人	2,227万人	571万人	869万人
構成比	100.0%		79.9%	20.1%	14.8%	51.7%	13.3%	20.2%
前年比	98.5%		98.4%	98.8%	93.7%	99.7%	100.7%	97.6%
合計	4,939万人	100.0%	3,442万人	1,497万人	715万人	2,585万人	644万人	996万人
構成比	100.0%		69.7%	30.3%	14.5%	52.3%	13.0%	20.2%
前年比	98.6%		98.4%	99.2%	93.6%	100.2%	100.3%	97.3%

【道内・道外客別構成比】



【日帰り・宿泊客別構成比】



【観光入込客数（実人数）の推移】（上段：人数、下段：前年比）

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
道外客	635 万人 103.1%	596 万人 93.9%	627 万人 105.3%	638 万人 101.8%	635 万人 99.5%
道内客	4,515 万人 103.0%	4,266 万人 94.5%	4,414 万人 103.5%	4,370 万人 99.0%	4,304 万人 98.5%
日帰り客	3,587 万人 103.4%	3,396 万人 94.7%	3,507 万人 103.3%	3,498 万人 99.9%	3,442 万人 98.4%
宿泊客	1,562 万人 102.1%	1,466 万人 93.8%	1,535 万人 104.7%	1,510 万人 98.4%	1,497 万人 99.2%
計	5,149 万人 103.0%	4,862 万人 94.4%	5,041 万人 103.7%	5,009 万人 99.4%	4,939 万人 98.6%

注) 千人以下四捨五入のため、合計が一致しない場合があります。

(参考) 観光入込客数(延べ人数)

1 総数

平成15年度の道内212市町村における観光入込客の総数は、延べ1億4,117万人で、前年度の98.5%(217万人減)となりました。

2 道外・道内客別

道外客は、4,493万人で前年度の98.0%(90万人減)、道内客は、9,623万人で前年度の98.7%(127万人減)となりました。
構成比で見ると、道外客が31.8%、道内客が68.2%となっています。

3 日帰り・宿泊客別

日帰り客は、1億1,303万人で前年度の98.8%(139万人減)、宿泊客は、2,814万人で同97.3%(78万人減)となりました。
構成比で見ると、日帰り客が80.1%、宿泊客が19.9%となっています。

<平成15年度観光入込客数(延べ人数)>

区分	観光客入込数	前年度対比	増減数	構成比
212市町村総数	14,117万人	98.5%	217万人	100.0%
道外客	4,493万人	98.0%	90万人	31.8%
道内客	9,623万人	98.7%	127万人	68.2%
日帰り客	11,303万人	98.8%	139万人	80.1%
宿泊客	2,814万人	97.3%	78万人	19.9%

4 月別・季節別

月別にみると、8月が最も多く全体の16.3%を占め、次いで7月14.4%、9月11.3%の順となっています。7月が前年度の104.8%、6月が同102.7%と増加しました。

季節別にみると、夏季が前年度の100.6%とわずかに増加していますが、他の季節は春季が同94.5%、冬季が同96.2%、秋季が同98.6%と減少しました。

<月別・季節別観光入込客数(延べ人数)>

区分	春		夏				上期
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月別	666万人	1,398万人	1,423万人	2,033万人	2,300万人	1,594万人	9,414万人
構成比	4.7%	9.9%	10.1%	14.4%	16.3%	11.3%	66.7%
前年同期比	86.2%	98.9%	102.7%	104.8%	98.5%	96.9%	99.2%
季節別	2,064万人		7,350万人				9,414万人
構成比	14.6%		52.1%				66.7%
前年同期比	94.5%		100.6%				99.2%

区分	秋		冬			下期	年間合計
	10月	11月	12月	1月	2月		
月別	1,214万人	647万人	597万人	725万人	821万人	698万人	4,702万人
構成比	8.6%	4.6%	4.2%	5.1%	5.8%	4.9%	33.3%
前年同期比	96.0%	103.7%	95.7%	98.0%	96.1%	95.0%	97.1%
季節別	1,861万人		2,841万人			4,702万人	14,117万人
構成比	13.2%		13.2%			33.3%	100.0%
前年同期比	98.6%		96.2%			97.1%	98.5%

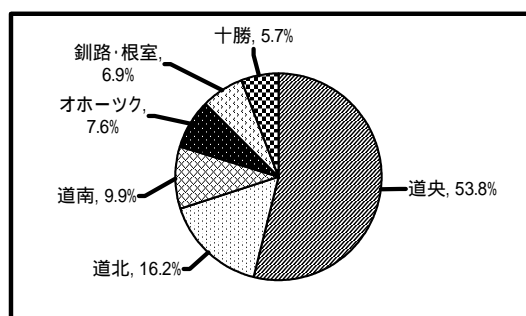
5 圏域別

圏域別にみると、前年度と比べ、すべての圏域で減少となっています。
各圏域の特徴は次のとおりです。

- 【道 央】冷夏によるイベントや海水浴客の入込減、8月の台風10号、9月の十勝沖地震の発生、暖冬など大きな自然災害などのマイナス要因があったものの、SARS発生に伴う旅行先の海外から道央圏への変更、修学旅行等各種誘致キャンペーンやJRタワーの開設効果などにより、ほぼ前年並みとなりました。
- 【道 北】テレビドラマのロケ地への観光客の増加、観光施設の開設や道北地域集中キャンペーンの効果などにより、上期は増加しましたが、下期に入り、ロケ地人気の沈静化、暖冬や3月の大雪の影響によるスキー客の減少などにより減少したため、全体では、ほぼ前年並みとなりました。
- 【道 南】春季の好天やGWの桜の開花、函館・羽田便の増便、東北新幹線開業1周年記念のJR格安商品や割引切符の効果などプラス要因があったものの、冷夏、SARS、十勝沖地震の間接的影響などで伸び悩み、減少となりました。
- 【オホーツク】各種大会の開催や観光施設の開設の効果などのプラス要因があったものの、冷夏、暴風雪や大雪などの自然災害の影響などにより、減少となりました。
- 【釧路・根室】好天が続いたこと、大阪～釧路便や仙台～釧路便の増便などのプラス要因があったものの、台風10号や十勝沖地震などの自然災害、冷夏や大雪の影響などにより、減少となりました。
- 【十 勝】冷夏やSARS発生による外国人観光客の減のほか、8月から9月にかけて発生した台風10号や十勝沖地震の大規模災害とこれによる風評被害などにより、減少となりました。

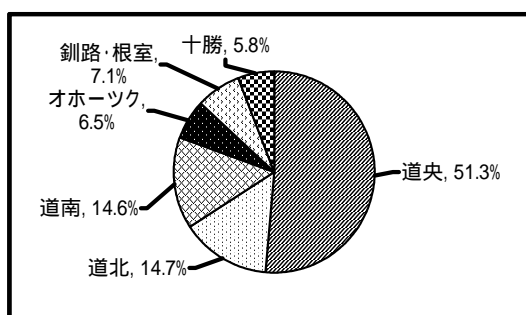
【観光入込客数（延べ数）圏域別構成比】

圏域別	観光入込客数	前年度対比	増減数	構成比
道央	7,588万人	99.7%	20万人	53.8%
道北	2,282万人	99.3%	16万人	16.2%
道南	1,393万人	95.6%	63万人	9.9%
オホーツク	1,071万人	94.8%	59万人	7.6%
釧路・根室	974万人	97.0%	30万人	6.9%
十勝	809万人	96.6%	29万人	5.7%
合計	14,117万人	98.5%	217万人	100.0%



【観光入込宿泊者数（延べ人数）圏域別構成比】

圏域別	観光入込宿泊者数 (延べ人数)	前年度対比	増減数	構成比
道央	1,766万人	98.9%	20万人	51.3%
道北	507万人	96.5%	19万人	14.7%
道南	502万人	98.8%	6万人	14.6%
オホーツク	225万人	96.5%	8万人	6.5%
釧路・根室	245万人	95.4%	12万人	7.1%
十勝	201万人	92.1%	17万人	5.8%
合計	3,446万人	97.7%	82万人	100.0%



6 市町村別

市町村別でみると、札幌市(定山溪を除く)が1,124万人(前年度比103.5%)で最も多く、次いで、小樽市800万人(同94.4%)、函館市525万人(同98.8%)以下、旭川市、喜茂別町、虻田町、登別市の順となっています。

一方、宿泊者数(延べ人数)でみると、札幌市(定山溪を除く)が779万人(前年度比103.2%)で最も多く、次いで、函館市402万人(同98.9%)、札幌市(定山溪)171万人(同88.7%)以下、登別市、阿寒町、上川町、帯広市の順となっています。

【観光入込客数の多い市町村】

順位	市町村名	入込総数	前年度対比
1位	札幌市(定山溪除く)	1,124万人	103.5%
2位	小樽市	800万人	94.4%
3位	函館市	525万人	98.8%
4位	旭川市	394万人	97.3%
5位	喜茂別町	350万人	95.0%
6位	虻田町	336万人	103.1%
7位	登別市	332万人	96.4%
8位	上川町	257万人	97.5%
9位	釧路市	252万人	102.0%
10位	富良野市	246万人	98.6%
11位	札幌市(定山溪)	244万人	102.0%
12位	七飯町	228万人	85.3%
13位	帯広市	211万人	93.0%
14位	千歳市	195万人	101.8%
15位	網走市	188万人	95.3%
16位	壮瞥町	186万人	99.6%
17位	白老町	183万人	100.9%
18位	阿寒町	169万人	91.8%
19位	夕張市	160万人	96.6%
20位	斜里町	155万人	97.4%

【観光入込宿泊者数(延べ人数)の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊客延数	前年度対比
1位	札幌市(定山溪除く)	779万人	103.2%
2位	函館市	402万人	98.9%
3位	札幌市(定山溪)	171万人	88.7%
4位	登別市	154万人	97.5%
5位	阿寒町	91万人	92.7%
6位	上川町	86万人	92.2%
7位	帯広市	81万人	95.0%
8位	小樽市	80万人	98.1%
9位	虻田町	74万人	102.6%
10位	旭川市	67万人	110.2%
11位	倶知安町	61万人	99.8%
12位	網走市	60万人	93.8%
13位	音更町	59万人	95.6%
14位	釧路市	58万人	102.1%
15位	斜里町	58万人	97.0%
16位	二セコ町	54万人	90.2%
17位	富良野市	54万人	94.4%
18位	弟子屈町	53万人	101.9%
19位	稚内市	46万人	97.4%
20位	東川町	45万人	95.4%

(参考) 来道観光客数(実人数)

1 概況

平成15年度の交通機関(航空機・フェリー・鉄道)の下り便の輸送実績をもとに推計した来道観光客数は、635万人で、前年度の638万人に対し99.5%となっています。

季節別でみると、夏季は前年度比103.5%と増加しましたが、他の季節は、春季同92.4%、秋季同97.8%、冬季同94.8%と減少しました。

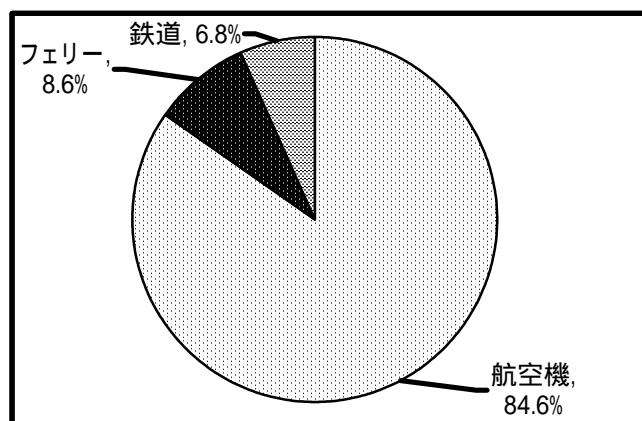
2 交通機関別の状況

交通機関別にみると、航空機(構成比84.6%)が、前年度の100.6%、鉄道(同6.8%)が同100.9%と増加しましたが、フェリー(同8.6%)は、同89.5%と減少しました。

<平成15年度来道観光客数(交通機関別・季節別)>

区分		合計	構成比	春(4月・5月)	夏(6月～9月)	秋(9月・10月)	冬(11月～3月)
合計	来道観光客数	635万人		78万人	358万人	73万人	127万人
	構成比	100.0%	100.0%	12.2%	56.4%	11.4%	20.0%
	前年度対比	99.5%		92.4%	103.5%	97.8%	94.8%
航空機	来道観光客数	537万人		63万人	303万人	61万人	110万人
	構成比	100.0%	84.6%	11.7%	56.4%	11.4%	20.5%
	前年度対比	100.6%		93.4%	106.2%	97.0%	92.8%
フェリー	来道観光客数	55万人		8万人	35万人	5万人	7万人
	構成比	100.0%	8.6%	14.7%	63.9%	8.3%	13.1%
	前年度対比	89.5%		87.0%	87.2%	100.9%	99.0%
鉄道	来道観光客数	43万人		7万人	20万人	7万人	10万人
	構成比	100.0%	6.8%	15.8%	46.5%	15.1%	22.7%
	前年度対比	100.9%		89.9%	96.6%	102.7%	120.5%

【交通機関別構成比】



(参考) 訪日外国人来道者数

1 訪日外国人来道者数(実人数)

(1) 概況

平成15年度の訪日外国人来道者数は、実人数で29万3,780人で、前年度の27万9,350人に対し105.2%と増加しました。

年度始めには、猛威を振るった新型肺炎(SARS)の感染地域からの旅行の手控えにより来道者が激減しましたが、その後SARSの終息とともに、これらの地域からの来道者数が急回復し、その後も根強い北海道人気に支えられて、堅調に推移しました。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は、25万1,550人で前年度(24万2,800人)の103.6%とわずかな増加に止まりました。

SARS感染地域のうち中国(香港)及び中国からの来道者数は前年度に比べ増加していますが、台湾は大幅に減少しました。一方で、非感染国の韓国からの来道者数の伸びは好調で、前年度の146.1%と大幅に増加しました。

国・地域別にみると、台湾が11万9,750人(前年度対比89.9%、構成比40.8%)と最も多く、次いで、韓国が6万1,200人(同146.1%、同20.8%)、中国(香港)が5万6,600人(同102.1%、同19.3%)の順となっています。

【台湾】 SARSの発生により春季に激減し、SARS終息後の夏季以降は急回復したものの、上期の落ち込みを復元するには至らず、年度では大幅に減少しました。

【中国(香港)・中国】 SARSの発生により春季は激減したものの、SARS終息後は順調に回復しました。中国は堅調に増加していますが、中国(香港)は、円高の進行の影響などの要因もあって、わずかな増加に止まりました。

【韓国】 夏の北海道人気に支えられ、好調に推移し、大幅に増加しました。

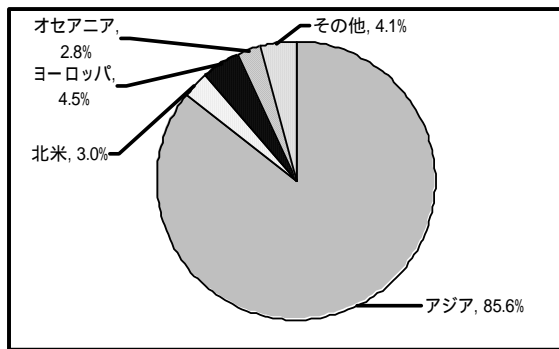
【その他】 14年度は、ワールドカップサッカー大会により増加しましたが、15年度はその反動により、ロシアを除くヨーロッパからの来道者数は大幅に減少しました。一方で、スキー客が大幅に増加したオーストラリアが急増しています。

<平成15年度訪日外国人来道者数(実人数)>

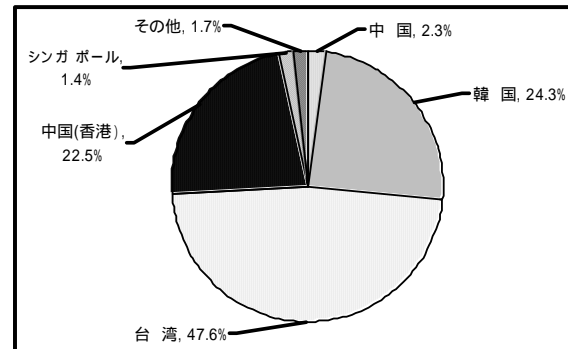
(単位:人)

区分	ア		ジ		ア		ヨーロッパ		北米		中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計		
	中国	韓国	台湾	中国(香港)	シンガポール	その他	小計	ロシア	その他	米国			カナダ	豪州			その他	
春季 (4・5月)	15年度	450	2,900	4,150	1,800	150	400	9,850	1,000	700	700	100	50	50	100	50	900	13,500
	14年度	900	3,000	18,000	3,800	300	500	26,500	900	650	800	100	50	50	50	50	600	29,750
	前年度対比	50.0%	96.7%	23.1%	47.4%	50.0%	80.0%	37.2%	111.1%	107.7%	87.5%	100.0%	100.0%	200.0%	100.0%	150.0%	45.4%	
夏季 (6~9月)	15年度	2,000	43,400	40,900	24,100	1,200	1,650	113,250	3,600	2,750	4,000	400	250	150	500	250	8,600	133,750
	14年度	1,600	26,000	49,300	22,200	500	2,300	101,900	3,200	7,250	3,700	400	1,550	250	500	200	3,400	122,350
	前年度対比	125.0%	166.9%	83.0%	108.6%	240.0%	71.7%	111.1%	112.5%	37.9%	108.1%	100.0%	16.1%	60.0%	100.0%	125.0%	252.9%	109.3%
秋季 (10・11月)	15年度	1,250	5,800	26,500	5,250	700	550	40,050	1,050	900	1,100	150	50	100	100	50	600	44,150
	14年度	900	4,550	20,800	6,250	300	600	33,400	1,000	1,100	1,050	100	100	100	80	20	750	37,700
	前年度対比	138.9%	127.5%	127.4%	84.0%	233.3%	91.7%	119.9%	105.0%	81.8%	104.8%	150.0%	50.0%	100.0%	125.0%	250.0%	80.0%	117.1%
冬季 (12~3月)	15年度	2,100	9,100	48,200	25,450	1,950	1,600	88,400	1,300	2,050	2,050	280	50	50	6,850	200	1,150	102,380
	14年度	1,800	8,350	45,100	23,200	1,150	1,400	81,000	1,700	1,650	1,950	250	50	50	1,600	100	1,200	89,550
	前年度対比	116.7%	109.0%	106.9%	109.7%	169.6%	114.3%	109.1%	76.5%	124.2%	105.1%	112.0%	100.0%	100.0%	428.1%	200.0%	95.8%	114.3%
合計	15年度	5,800	61,200	119,750	56,600	4,000	4,200	251,550	6,950	6,400	7,850	930	400	350	7,550	550	11,250	293,780
	14年度	5,200	41,900	133,200	55,450	2,250	4,800	242,800	6,800	10,650	7,500	850	1,750	450	2,230	370	5,950	279,350
	前年度対比	111.5%	146.1%	89.9%	102.1%	177.8%	87.5%	103.6%	102.2%	60.1%	104.7%	109.4%	22.9%	77.8%	338.6%	148.6%	189.1%	105.2%
構成比		2.0%	20.8%	40.8%	19.3%	1.4%	1.4%	85.6%	2.4%	2.2%	2.7%	0.3%	0.1%	0.1%	2.6%	0.2%	3.8%	100.0%

【地域別構成比】



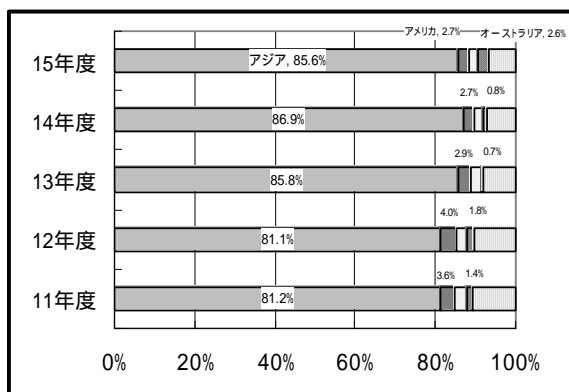
【アジア地域内構成比】



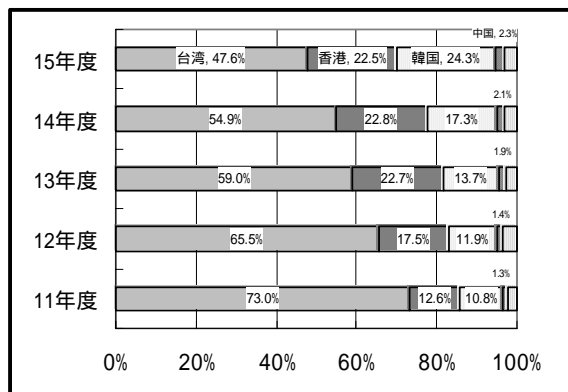
【外国人来道者数(実人数)の推移】(上段:人数、下段:前年度対比)

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	
アジア	台湾	120,900人 129.0%	109,700人 90.7%	119,450人 108.9%	133,200人 111.5%	119,750人 89.9%
	中国(香港)	20,800人 136.8%	29,400人 141.3%	45,900人 156.1%	55,450人 120.8%	56,600人 102.1%
	韓国	17,800人 164.8%	19,900人 111.8%	27,850人 139.9%	41,900人 150.4%	61,200人 146.1%
	中国	2,100人 110.5%	2,400人 114.3%	3,900人 162.5%	5,200人 133.3%	5,800人 111.5%
	その他	3,950人 77.5%	6,200人 157.0%	5,450人 87.9%	7,050人 129.4%	8,200人 116.3%
アメリカ	7,350人 90.7%	8,350人 113.6%	6,950人 83.2%	7,500人 107.9%	7,850人 104.7%	
ロシア	6,400人 112.3%	6,100人 95.3%	6,100人 100.0%	6,800人 111.5%	6,950人 102.2%	
オーストラリア	2,900人 111.5%	3,700人 127.6%	1,550人 41.9%	2,230人 143.9%	7,550人 338.6%	
その他(不明を含む)	21,700人 79.8%	20,850人 96.1%	18,950人 90.9%	20,020人 105.6%	19,880人 99.3%	
合計	203,900人 119.7%	206,600人 101.3%	236,100人 114.3%	279,350人 118.3%	293,780人 105.2%	

【地域別構成比の推移】



【アジア地域内構成比の推移】



2 訪日外国人来道宿泊者数（延べ人数）

（1）概況

平成15年度訪日外国人宿泊者数は、88万4,647人で、前年度比102.5%と増加しました。

<平成15年度訪日外国人宿泊者数（延べ人数）>

（単位：人泊）

	アジア							ヨーロッパ			
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	フィリピン	その他	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ
15年度	17,079	108,559	410,893	198,804	14,216	643	13,949	10,876	3,734	2,264	5,037
14年度	15,381	83,348	447,511	193,984	8,139	880	16,347	10,140	11,353	2,122	5,205
前年同期比	111.0%	130.2%	91.8%	102.5%	174.7%	73.1%	85.3%	107.3%	32.9%	106.7%	96.8%

	北米			中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計
	その他	米国	カナダ			豪州	その他		
15年度	11,150	28,225	3,031	1,084	987	27,190	1,923	25,003	884,647
14年度	11,253	27,575	3,264	4,021	1,493	7,884	1,193	11,957	863,050
前年同期比	99.1%	102.4%	92.9%	27.0%	66.1%	344.9%	161.2%	209.1%	102.5%

（2）月別・季節別

月別にみると、8月が最も多く、全体の15.0%を占め、次いで7月14.1%、1月12.8%の順となっています。前年度対比でみると、SARSの影響により、4月42.0%、5月34.5%、6月39.6%と激減しましたが、年度後半にかけては、1月170.9%、9月158.8%、3月147.1%と大幅に増加しています。

季節別にみると、春季は前年度の37.8%と大幅に減少しましたが、他の季節は増加し、秋季118.8%、冬季116.0%、夏季102.0%となっています。

<月別・季節別訪日外国人宿泊者数（延べ人数）>

（単位：人泊）

区分	春		夏				上期計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月別	16,555	17,197	28,269	124,664	132,559	79,993	399,237
構成比	1.9%	1.9%	3.2%	14.1%	15.0%	9.0%	45.1%
前年同期比	42.0%	34.5%	39.6%	93.1%	129.1%	158.8%	89.2%
季節別	33,752		365,485				399,237
構成比	3.8%		41.3%				45.1%
前年同期比	37.8%		102.0%				89.2%

区分	秋			冬			下期計	年間合計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
月別	96,379	52,951	91,851	113,081	88,407	42,741	485,410	884,647
構成比	10.9%	6.0%	10.4%	12.8%	10.0%	4.8%	54.9%	100.0%
前年同期比	122.1%	113.1%	120.2%	170.9%	74.9%	147.1%	116.8%	102.5%
季節別	149,330			336,080			485,410	884,647
構成比	16.9%			38.0%			54.9%	100.0%
前年同期比	118.8%			116.0%			116.8%	102.5%

(3) 圏域別

圏域別の前年度対比では、地域集中キャンペーンを実施した道北圏が114.8%と高い伸びを示したほか、道央圏が105.3%、釧路・根室圏が100.5%と増加しましたが、オホーツク圏が78.0%、十勝圏が87.5%、道南圏が89.1%と、これらの3圏域では上期の落ち込みが大きく、年度で減少しました。

< 圏域別訪日外国人宿泊者数 (延べ人数) >

	アジア								ヨーロッパ					
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	フィリピン	その他	小計	ロシア	イギリス	フランス	ドイツ	その他	小計
道南	778	4,775	36,928	12,533	2,197	31	760	58,002	480	304	68	106	151	1,109
道央	14,329	85,831	190,924	148,535	6,664	462	10,552	457,297	4,133	2,645	1,786	3,927	8,509	21,000
道北	741	7,854	85,917	21,295	2,360	67	1,339	119,573	1,558	267	156	431	1,641	4,053
オホーツク	371	1,344	16,616	6,266	37	34	178	24,846	469	164	86	141	141	1,001
十勝	285	5,445	38,984	6,878	1,251	19	556	53,418	88	59	114	40	210	511
釧路・根室	575	3,310	41,524	3,297	1,707	30	564	51,007	4,148	295	54	392	498	5,387
合計	17,079	108,559	410,893	198,804	14,216	643	13,949	764,143	10,876	3,734	2,264	5,037	11,150	33,061

	北米		中南米	アフリカ	オセアニア		不明	合計	前年度対比	14年度
	米 国	カナダ			豪 州	その他				
道南	1,485	150	26	11	249	55	219	61,306	89.1%	68,821
道央	21,581	2,257	635	536	25,789	1,564	23,352	554,011	105.3%	525,939
道北	2,771	397	172	62	788	38	272	128,126	114.8%	111,638
オホーツク	977	98	5	82	116	180	432	27,737	78.0%	35,550
十勝	395	22	29	243	105	64	593	55,380	87.5%	63,297
釧路・根室	1,016	107	217	53	143	22	135	58,087	100.5%	57,805
合計	28,225	3,031	1,084	987	27,190	1,923	25,003	884,647	102.5%	863,050

(4) 市町村別

市町村別にみると、有名温泉地を抱える市町村が上位を占めており、札幌市が22万2,425人(前年度対比95.8%)で最も多く、次いで、登別市8万2,863人(同110.9%)、上川町5万6,960人(同109.7%)、虻田町5万2,810人(同100.5%)、壮瞥町4万8,079人(同97.2%)となっています。

[宿泊延べ数の多い上位5ヶ国]

(単位:人泊、%)

順位	国 名	宿泊延べ数	前年度対比
1	台湾	410,893	91.8
2	中国(香港)	198,804	102.5
3	韓国	108,559	130.2
4	アメリカ	28,225	102.4
5	オーストラリア	27,190	344.9

[訪日外国人宿泊延べ数の多い市町村]

(単位:人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	222,425	95.8
2	登別市	82,863	110.9
3	上川町	56,960	109.7
4	虻田町	52,810	100.5
5	壮瞥町	48,079	97.2

[台湾の宿泊延べ数の多い市町村]

(単位:人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	66,201	71.3
2	上川町	48,182	112.1
3	阿寒町	31,734	95.6
4	壮瞥町	28,954	92.4
5	登別市	27,387	83.3

[中国(香港)の宿泊延べ数の多い市町村]

(単位:人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	67,631	103.6
2	登別市	28,208	169.6
3	虻田町	19,506	101.7
4	小樽市	9,967	129.3
5	占冠村	9,828	178.9

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

(単位:人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	6,834	84.7
2	虻田町	1,377	209.6
3	夕張市	1,370	10,538.5
4	登別市	1,220	184.0
5	壮瞥町	1,104	111.0

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

(単位:人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	登別市	23,407	111.6
2	札幌市	22,144	109.4
3	壮瞥町	14,297	165.7
4	留寿都村	10,365	107.8
5	ニセコ町	4,630	701.5

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

(単位:人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	倶知安町	23,510	525.1
2	札幌市	1,160	99.5
3	留寿都村	266	
4	函館市	232	102.7
5	東川町	225	139.8

【アメリカの宿泊延べ数の多い市町村】

(単位:人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	札幌市	14,711	119.2
2	千歳市	2,501	97.2
3	旭川市	1,329	167.8
4	函館市	1,327	74.6
5	登別市	796	84.9

【ロシアの宿泊延べ数の多い市町村】

(単位:人泊、%)

順位	市町村別	宿泊延べ数	前年度対比
1	根室市	2,804	262.3
2	札幌市	2,736	167.4
3	稚内市	1,328	103.8
4	釧路市	1,175	66.7
5	小樽市	884	167.7

北海道観光入込客数調査報告書 [平成15年度]

平成16年7月

北海道経済部観光振興課

札幌市中央区北3条西6丁目

TEL 011-231-4111 内線 26-565

FAX 011-232-4120
